

子宮頸がん予防ワクチン（サーバリックス）を接種される方へ

子宮頸がんとは

子宮頸がんは、子宮頸部(子宮の入り口)にできるがんです。20～30代の女性で急増し年間15,000人の女性が発症しているという報告があります。初期の段階では自覚症状がほとんどないため、しばしば発見が遅れてしまいます。がんが進行すると、不正出血や性交時の出血がみられます。

子宮頸がんと発がん性ヒトパピローマウイルス

- ①子宮頸がんは、発がん性HPV(ヒトパピローマウイルス)の感染が原因で引き起こされる病気です。
- ②感染しても多くの場合一時的で、ウイルスは自然に排除されますが、感染期間が長く続くと子宮頸がんを発症することがあります。
- ③多くの女性が一生のうちに一度は感染するごくありふれたウイルスです。
- ④発がん性HPVには15種類ほどのタイプがあり、その中でもHPV16型、18型は子宮頸がんから多く見つかるタイプです。日本人子宮頸がん患者の約60%からこの2種類の発がん性HPVが見つかっています。

HPV16型、18型の感染を防ぐワクチン

- ①子宮頸がん予防ワクチンは全ての発がん性HPVの感染を防ぐものではなく、子宮頸がんから多くみつかるとHPV16型・18型の二つのタイプの発がん性HPVの感染を防ぐことができます。ただし、HPV16型・18型以外の発がん性HPVの感染は予防できません。また、ワクチン接種時に発がん性HPVに感染している人に対してウイルスを排除したり、発症を遅らせたり治療したりすることはできません。
- ②子宮頸がんの発症は20代後半に多いですが、発がん性HPVに感染してから発症するまで数年～十数年かかります。感染する可能性が低い10代前半に子宮頸がん予防ワクチンを接種することで、子宮頸がんの発症をより効果的に予防できます。

予防接種の実施においては体調の良い日に行うことが原則です。次のような場合には接種できません。

- ①明らかに発熱している方(通常は37.5℃を超える場合)
- ②重い急性疾患にかかっている方
- ③サーバリックスの成分(詳しくは医師にお尋ねください)によって過敏症(通常接種後30分以内に出現する呼吸困難や全身性のじんましんなどを伴う重いアレルギー反応を含む)をおこしたことがある方
- ④その他、かかりつけ医師に予防接種を受けないほうがよいと言われた方

次の方は接種前に医師にご相談ください

- ①血小板が少ない方や出血しやすい方
- ②心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患、発育障害などの基礎疾患のある方
- ③過去に予防接種で接種後に2日以内に発熱のみられた方
- ④過去にけいれん(ひきつけ)をおこしたことがある方
- ⑤過去に免疫状態の異常を指摘されたことのある方、もしくは近親者に先天性免疫不全症の方
- ⑥妊娠あるいは妊娠している可能性のある方(3回の接種期間中を含む)

子宮頸がん予防ワクチンの主な副反応

- ①関連性があると考えられた主な副反応について以下のように報告されています。

- 頻度 10%以上 かゆみ、注射部分の痛み・赤み・腫れ、胃腸症状(吐き気、嘔吐、下痢、腹痛など)、筋肉の痛み、関節の痛み、頭痛、疲労
- 頻度 1～10%未満 発疹、じんましん、注射部分のしこり、めまい、発熱、上気道感染
- 頻度 0.1～1%未満 注射部分のピリピリ感、ムズムズ感
- 頻度不明 失神、血管迷走神経発作(息苦しい、息切れ、動悸、気を失うなど)

②重い副反応としてまれに、アナフィラキシー様症状(血管浮腫・じんましん・呼吸困難など)があらわれることがあります。

③接種後1週間は症状に注意し、強い痛みがある場合や痛みが長く続いている場合など、気になる症状があるときは接種した医師にご相談ください。

健康被害救済について

定期の予防接種により引き起こされた副反応により、医療機関での治療が必要になったり、生活に支障が出るような健康被害が生じた場合は、予防接種法に基づく補償を受けることができます。(予防接種と健康被害との因果関係を国の審査会にて審査し予防接種法によるものと認定された場合)

接種後の症状について

①子宮頸がん予防ワクチン(サーバリックス)にはワクチンの効き目をよくするために2種類のアジュバンド(免疫増強剤)が添加されています。1つはアルミニウム塩で国内で市販されているワクチンによく使われます。もう1つはMPL(3-脱アシ化モノホスホリル脂質A)で、海外で市販されているワクチンにも添加されていますが国内で初めて添加される成分です。

②接種後 9 割の方に注射した部分が腫れたり痛むことがあります。

③注射した部分の痛みや腫れは、体内でウイルス感染に対して防御する仕組みが働くために起こります。通常は数日間程度で治ります。

④海外で市販されている子宮頸がん予防ワクチン(サーバリックス)は推定220万人以上(3回接種で換算)に接種されています。(2009年5月時点)国内の臨床試験では約600名に接種されています。

接種後の注意

①接種後に重いアレルギー症状がおこることがあるので、接種後はすぐに帰宅せず少なくとも30分間は安静にしてください。

②接種後は接種部位を清潔に保ちましょう。

③接種後丸一日は過度な運動を控えましょう。

④接種当日の入浴は問題ありません。

⑤接種後は接種部位を揉まないようにしましょう。痛みが強まる場合があります。

子宮頸がん検診の大切さ

このワクチンでは、全ての型のヒトパピローマウイルス (HPV) の感染を予防することはできません。また、既に感染しているウイルスを排除したり、子宮頸部の細胞に生じた異常(がんになる前の病変やがん)を治したりすることはできません。子宮頸がんは、早期に発見すれば治すことが可能ながんです。20歳になったら、子宮頸がん検診を定期的に受診しましょう。検診を継続受診することが、子宮頸がんの予防には重要です。